

土佐塾高生徒に 最先端 知の魅力

大学教授ら講義

高知市北中山の土佐塾高
校(山崎澄夫校長、662
人)で18日、全国15の大学
や大学院の教授らがそれぞ
れの分野の「知の魅力」を
講義する「ワンデーセミナ
12016」が開かれた。

最先端の知に触れること
で社会への関心や進学意欲
を高めようと毎年実施して
おり、今回で15回目。

東京大学大学院総合文化
研究科の内田さやか准教授
(41)は、「ナノメートルの
孔を創って観て活用する」
と題して講義。1ナメート
ルは1分の10億分の1で、
ナノレベルの孔がたくさん
ある鉱物ゼオライトが原油



大学教授らが「知の魅力」を講義した＝高知市北中山の土佐塾高校

の分離や臭気除去などに役
立っていることや、福島第
一原発事故で放出された放
射性セシウム除去のための
多孔性新材料開発に携わっ
ていることなどを話した。
1年生の岸本武士さん(15)
は「ナノレベルの孔が生活
や産業に役立っていること
が分かった」と話した。

明治大学文学部の野田学

教授(53)は、「文学部でや
ること―ハムレットは何に
悩んでいたのか」としてシ
ェークスピア論を展開。
「生きるべきか、死ぬべき
か、それが問題だ」と訳さ
れることも多い名言を取り
上げ、「読み込めば、生き
ることは耐え忍び何もしな
いことにつながり、死ぬこ
とは困難に立ち向かい終止
符を打つことにつながる。
虚実ないまぜに行ったり
来たりする様子を観客に
問いたかったのでは」と解
説した。3年生の浜村時羽
さん(17)は「400年も前
の作品なのに私たちに訴え
かけてくるシェークスピア
はすごい」と話していた。

(堀内要朗)